



狩野昌運筆 竹に雀図（部分）江戸時代初期

第31回新収蔵品展

ふくおかの歴史とくらし

令和2年1月11日(土)～令和2年2月16日(日)

特別展示室 A

開催にあたって

福岡市博物館は、昭和58（1983）年に博物館建設準備室が発足して以来、多くの方々にご協力いただき、資料を収集してまいりました。ご寄贈やご寄託、あるいは購入によって、これまでに収集した資料は17万件以上にのぼります。

新しく収集した資料は原則すべて、2年にわたる調査と整理を行い、保存とともに館の内外で有効活用できるように、収集年度別『収蔵品目録』に掲載しています。また目録刊行の翌年には「新収蔵品展」を開催し、博物館の資料収集活動を広く市民の皆様知っていただくとともに、新たに収集した資料を実際にご覧いただく機会を設けております。

31回目を迎えた本展では、『収蔵品目録』第34号に掲載した平成28年度の収蔵資料15,864件の中から、約200点をご紹介します。考古・歴史・民俗・美術の多岐にわたる資料をおして、「ふくおかの歴史とくらし」に思いを寄せていただければ幸いです。

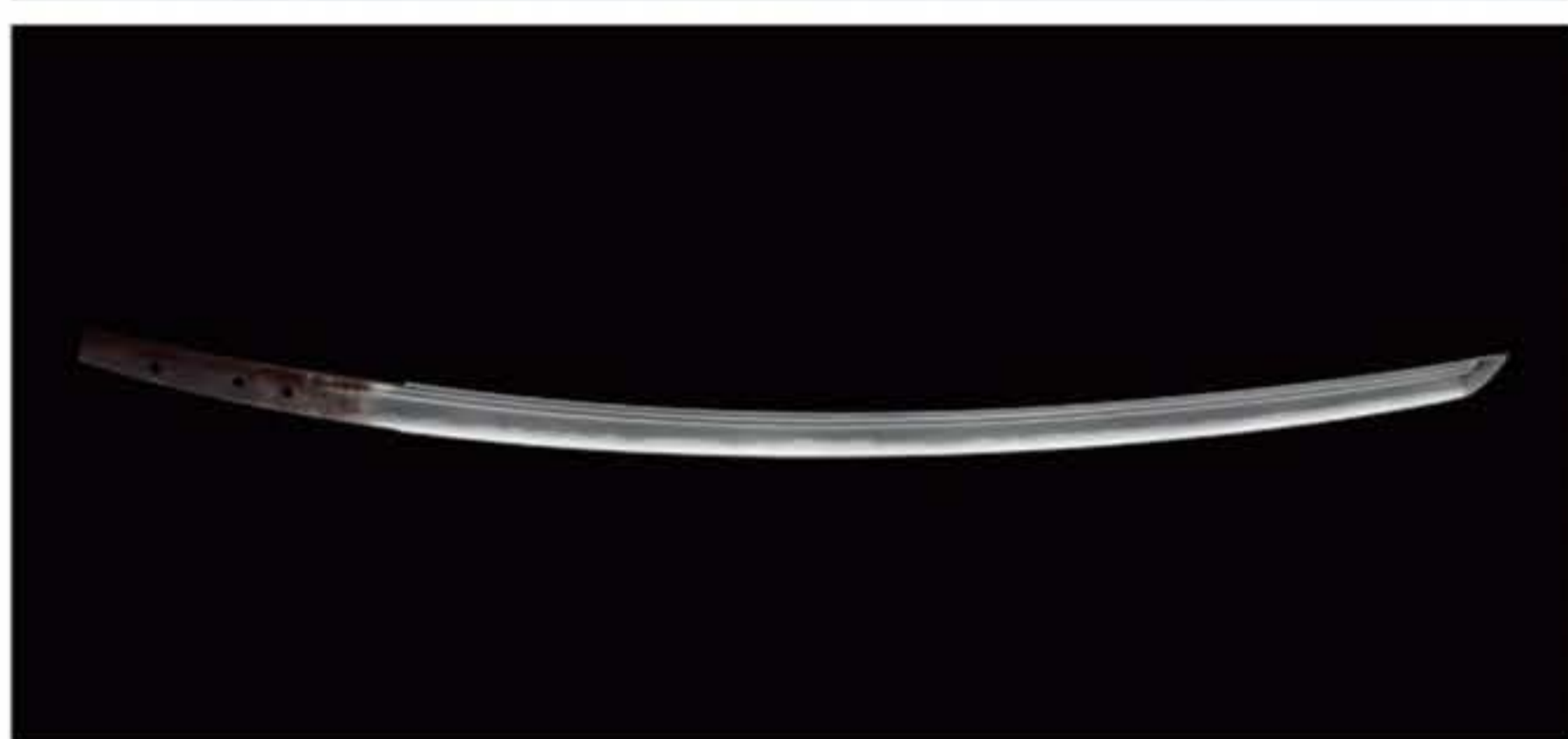
一 ふくおかの歴史

中世から近世にかけて

本展の冒頭で紹介する「太刀 銘 国宗」は、鎌倉時代に備前（現・岡山県）に出自をもつ刀工が造った優れた刀で、近代以降は公爵島津忠承家の旧蔵を経て伝来しました。刀剣などの武器は本来、戦場における実用品ですが、所有者の威厳を高める威信財、鑑賞者を満足させる美術

品としての側面ももっています。

福岡市域の中心部は中世以来「博多」が対外貿易の拠点として発展し、近世に入り黒田氏によって城下町「福岡」が造られました。武士だけでなく、絵師や文人らの活躍も裏付ける資料から、当時の福岡の文化的な豊かさが窺えます。



(上)「太刀 銘 国宗」鎌倉時代後期の作で、公爵島津忠承家旧蔵。重要美術品。〔稲員大三郎資料〕

(右) 江戸時代後期に造られた豪華な太刀拵。〔稲員大三郎資料〕

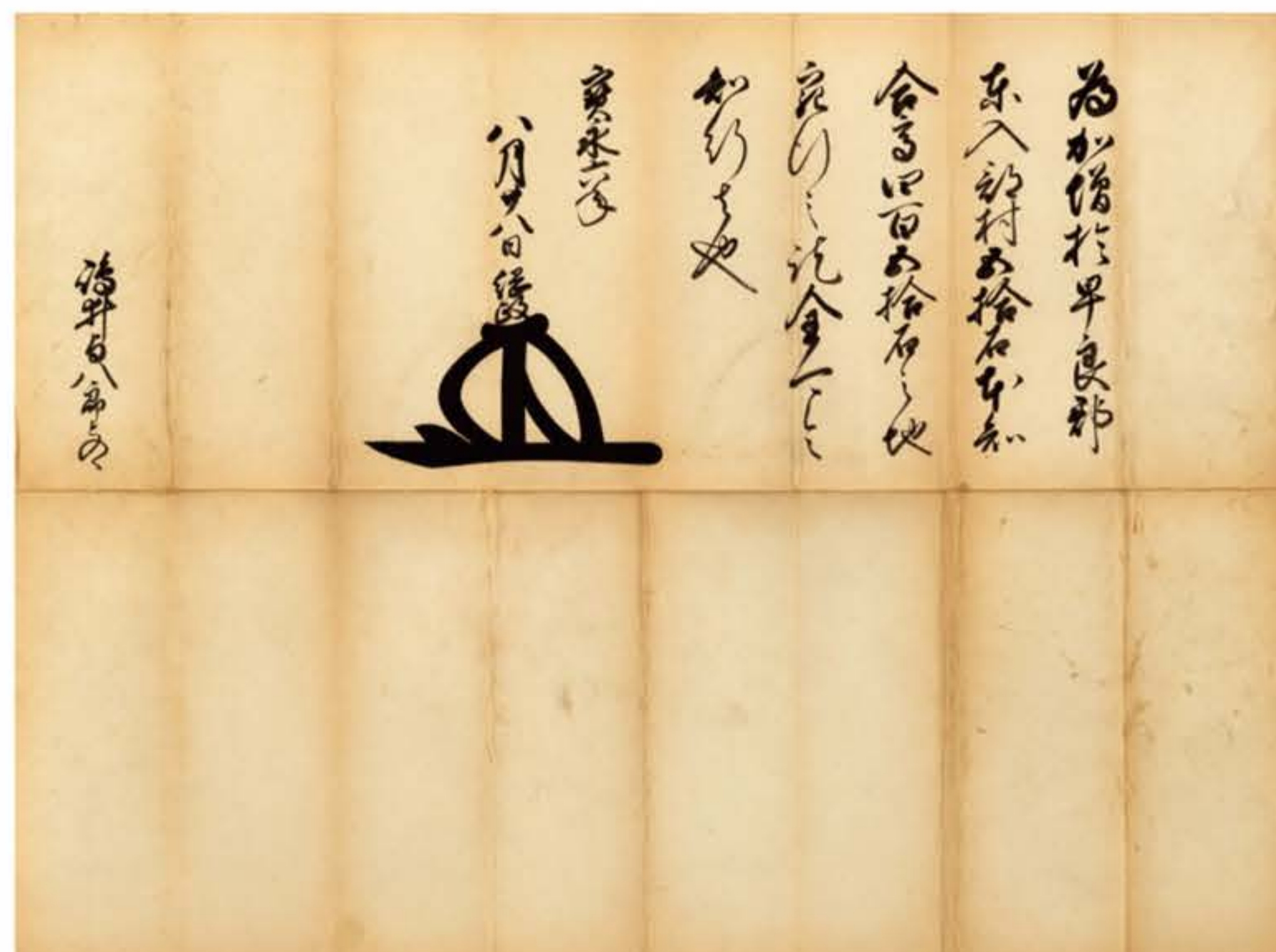
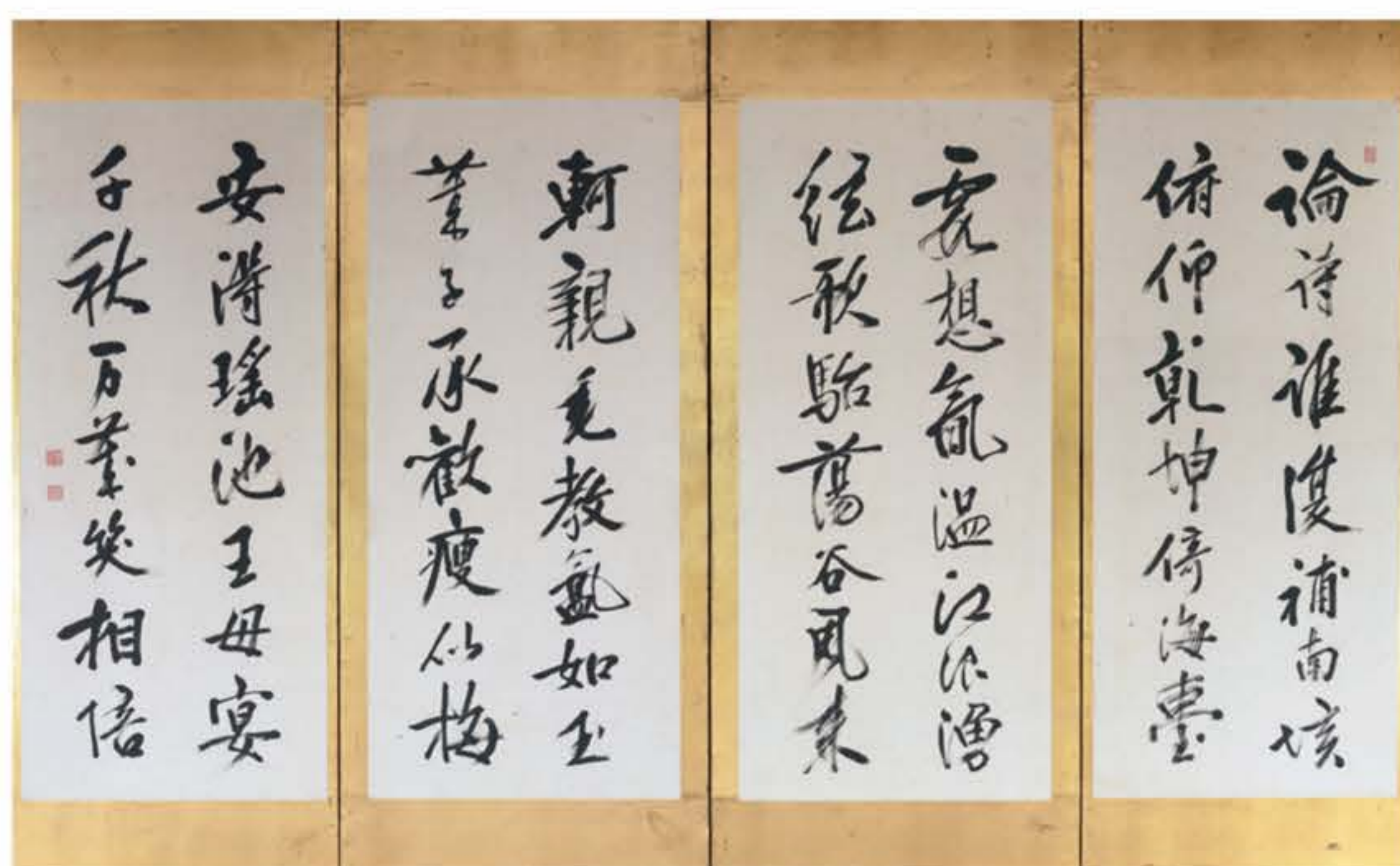
(左) 代々福岡藩の御用絵師を勤めた衣笠家の当主が用いた印章。〔衣笠資料〕

(下) 秋月藩に仕えて武功を重ねた坂田家に伝来する大身槍の鞘。〔坂田立子資料〕



(左) 福岡藩御用絵師・石里洞秀（2代）による鷹図。江戸時代後期の福岡の武家文化の一端を物語る。〔木村和男資料〕

(下) 福岡藩儒学者・亀井南冥が揮毫した七言律詩の屏風。江戸時代後期の福岡の文人の活躍が窺える。〔松本登美子資料〕



(上) 東蓮寺藩および同藩還付後の福岡藩に代々仕えた島井家に伝来した知行宛行状。宝永6年に福岡藩4代藩主・黒田綱政から嶋井与八郎に宛てられたもの。〔島井健資料〕

二 ふくおかの歴史

近世から近代にかけて

近世の福岡を拓いた福岡藩の祖・黒田孝高(如水)はキリシタン大名でした。旧藩士の家に伝来した江戸時代初期の南蛮趣味の鏡は、その名残を伝えるものです。また代々の藩主が認めた文書や下賜の品々、歴史的な事件を描いた絵図などからは、当時の福岡の政治や武士のくらしがうかがえます。11代藩主・黒田長溥旧蔵のピストルは、明治になってかつての家臣へ贈られ、大切に保管されてきたもので、激動の幕末期の辛苦とともに、それまでの長きにわたって育まれた武士階級の絆を偲ばせます。

近代は、日本人全体が様々なかたちで戦争を経験した時代です。例えば日露戦争は、国にとっても国民生活にとっても大きな出来事だったことが複数の資料から窺えます。福岡の歩兵第24連隊第6中隊が日露戦争記念として制作した木盃や『日露交戦記念録』の購入予約者を募る主意書もその一部です。



(左) 個人宅で祀られていた漆箔仕上げの阿弥陀如来像。慶応4年に佐賀の御用仏師・内田猪吉郎が造立した。〔中西真由子資料〕

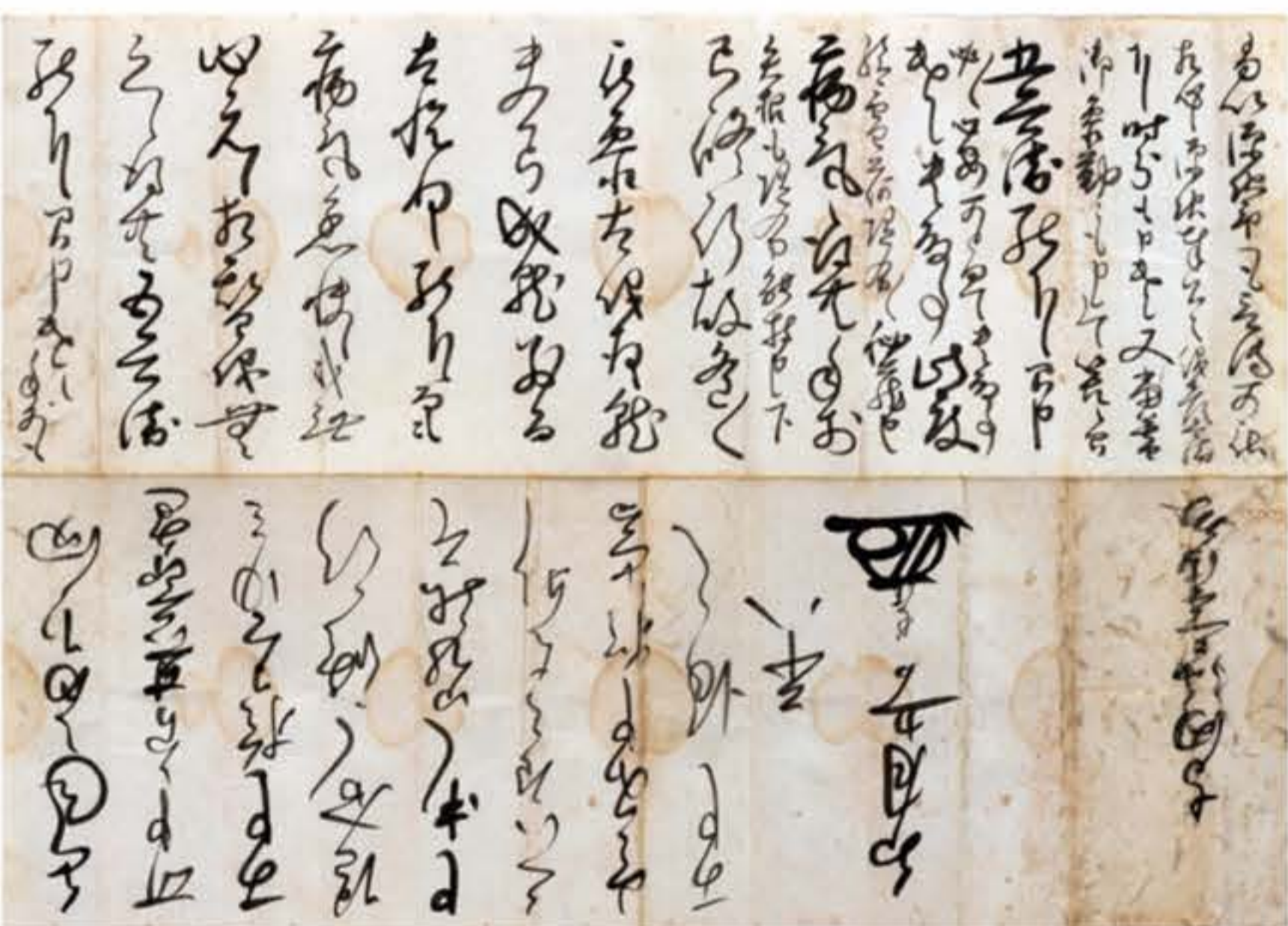
(下右)「心得之ヶ条」は、農業出精など福岡藩の郡方役人が教示した内容を記す文政元年本を、安政5年に写したもの。

(下左)『日露交戦紀年録』の購入予約者を募る主意書。〔本多文字子資料〕



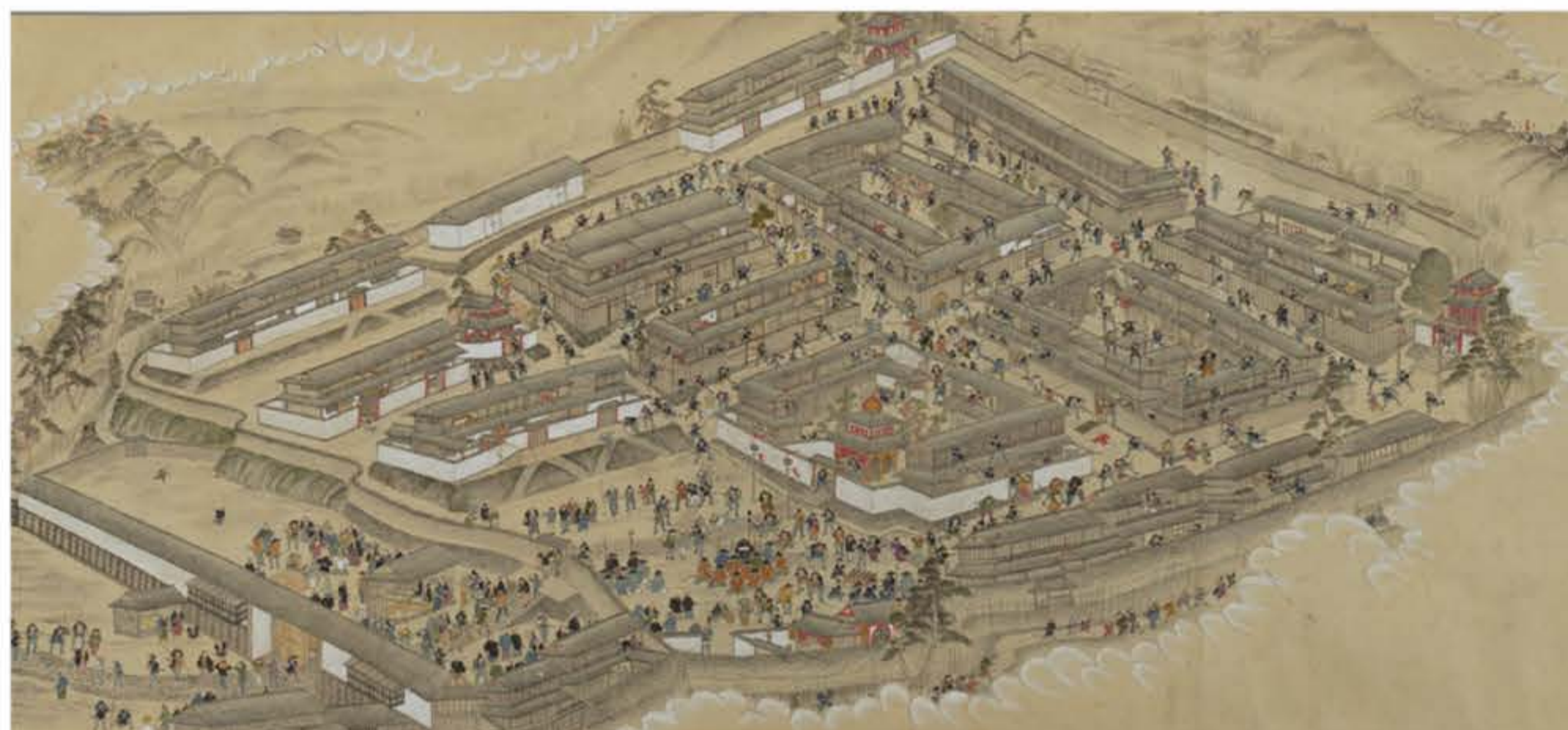
(右) 福岡藩に仕えた梶原家に伝来した兜。巻雲形の前立をもつ。「早乙女家久」の銘によって作成者がわかる。

(上) 西欧の王侯や紋章、貴婦人などが象嵌された珍しい鏡。南蛮趣味の影響が窺える。〔草場七生資料〕



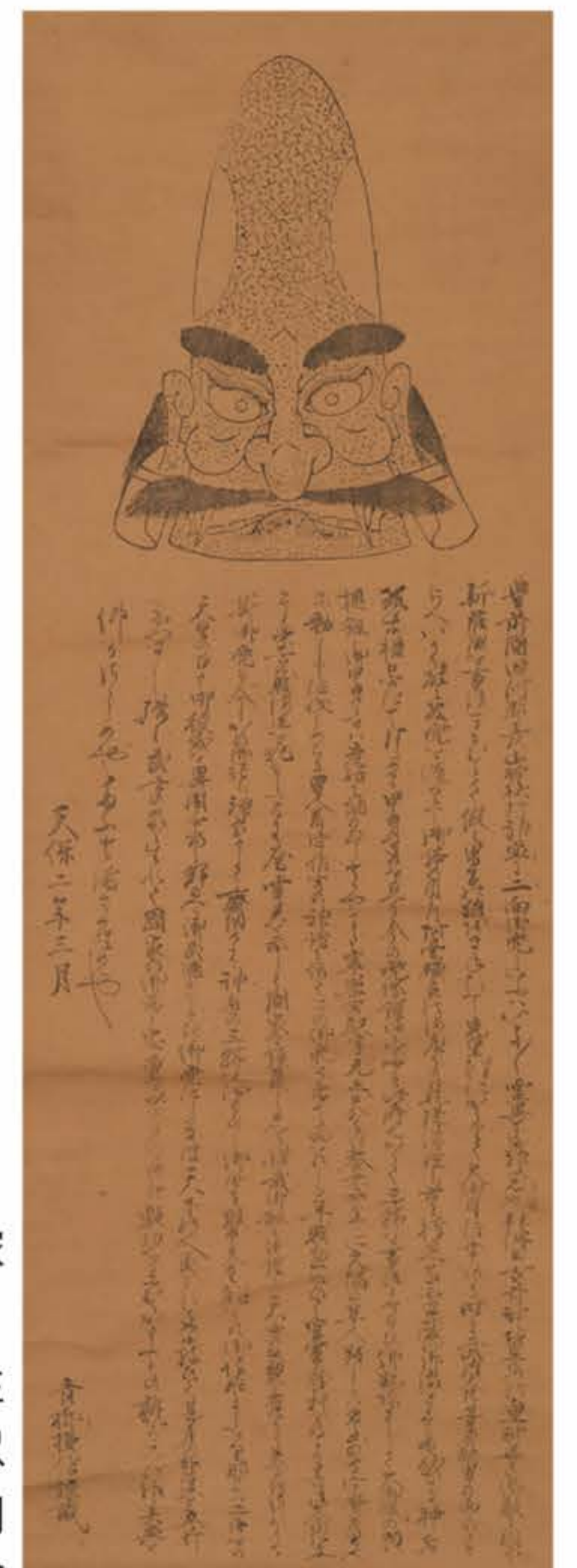
(上右) 天保6年12月に長崎で起きた唐人屋敷騒動の絵図。騒動鎮圧のため足軽頭として長崎に派遣された寺田卯六郎の家に伝わったもの。

(上左) 黒田孝高(如水)の時代から黒田家に仕えた福岡藩士・寺田家に伝来した書状で、直方藩4代藩主・黒田長清が寺田弥三兵衛に宛て、病氣見舞いと弓修行の成果を報告する内容。〔寺田義郎資料〕



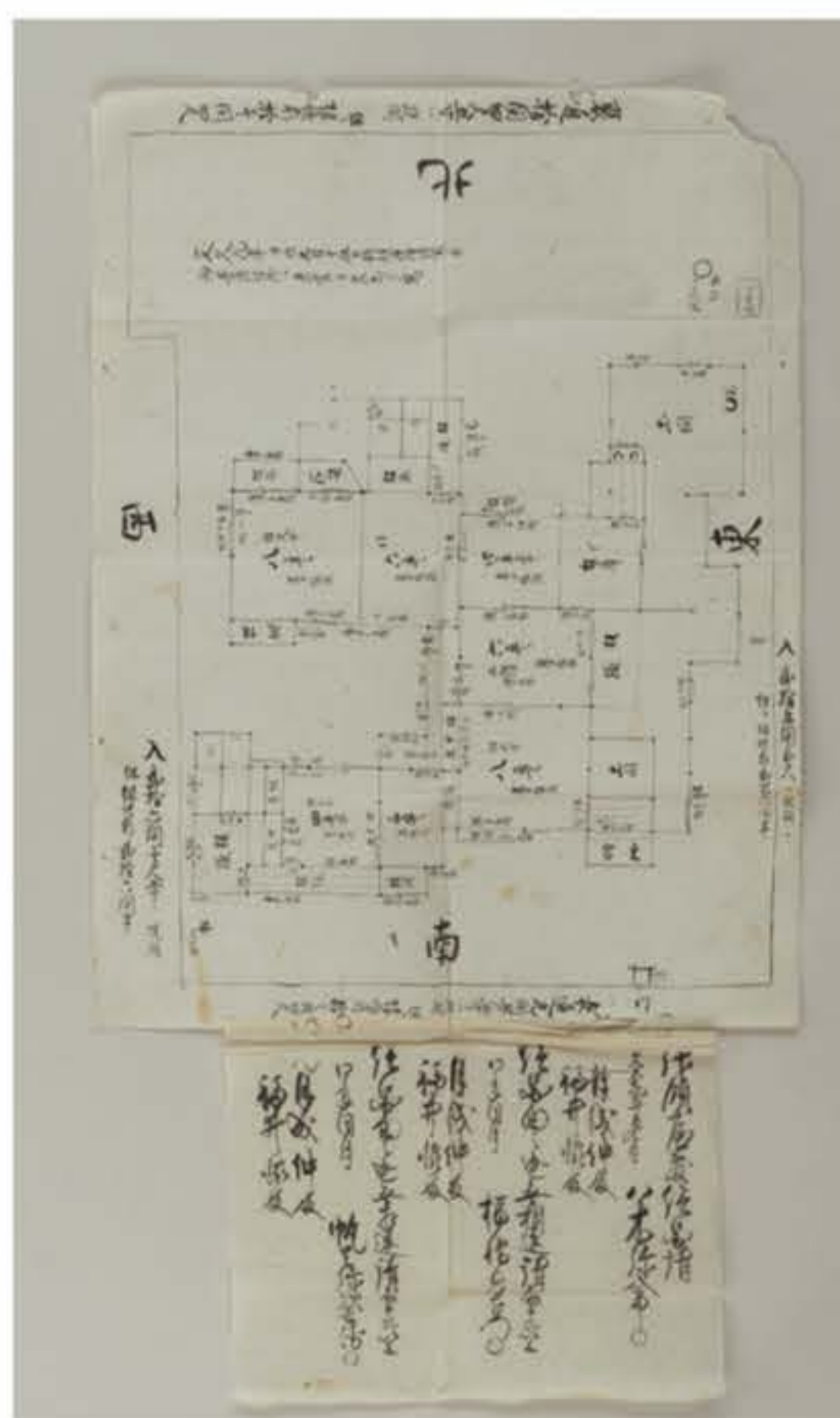
(右) 福岡藩の国学者・青柳種信が彦山神社の神宝の由来を記した「英彦山二面兜図」を木版で摺ったもの。交通の要衝として栄えた今宿で、諸藩に御用宿として利用された諸国屋に伝わった。

〔西信夫資料〕



(左) 早良郡姪浜村で廻船問屋を営んだ石橋家(屋号は紙屋)に伝わる麻の袴で、文久3年に石橋善左衛門芳重が福岡藩から拝領したもの。

(下) 左の木盃は、日露戦争の戦役記念に陸軍歩兵隊24連隊第6中隊が、右の木杯は、姪浜旦過町が紀元2600年整備記念として作ったもの。〔石橋善弘資料〕



(左) 福岡藩士・帆足家に伝わる拝領屋敷絵図。

(下) 幕末の帆足家当主・久八郎が実務方として尽力したことに対して、福岡藩11代藩主・黒田長溥が感謝の意を表し、与えたピストル。〔帆足高明資料〕

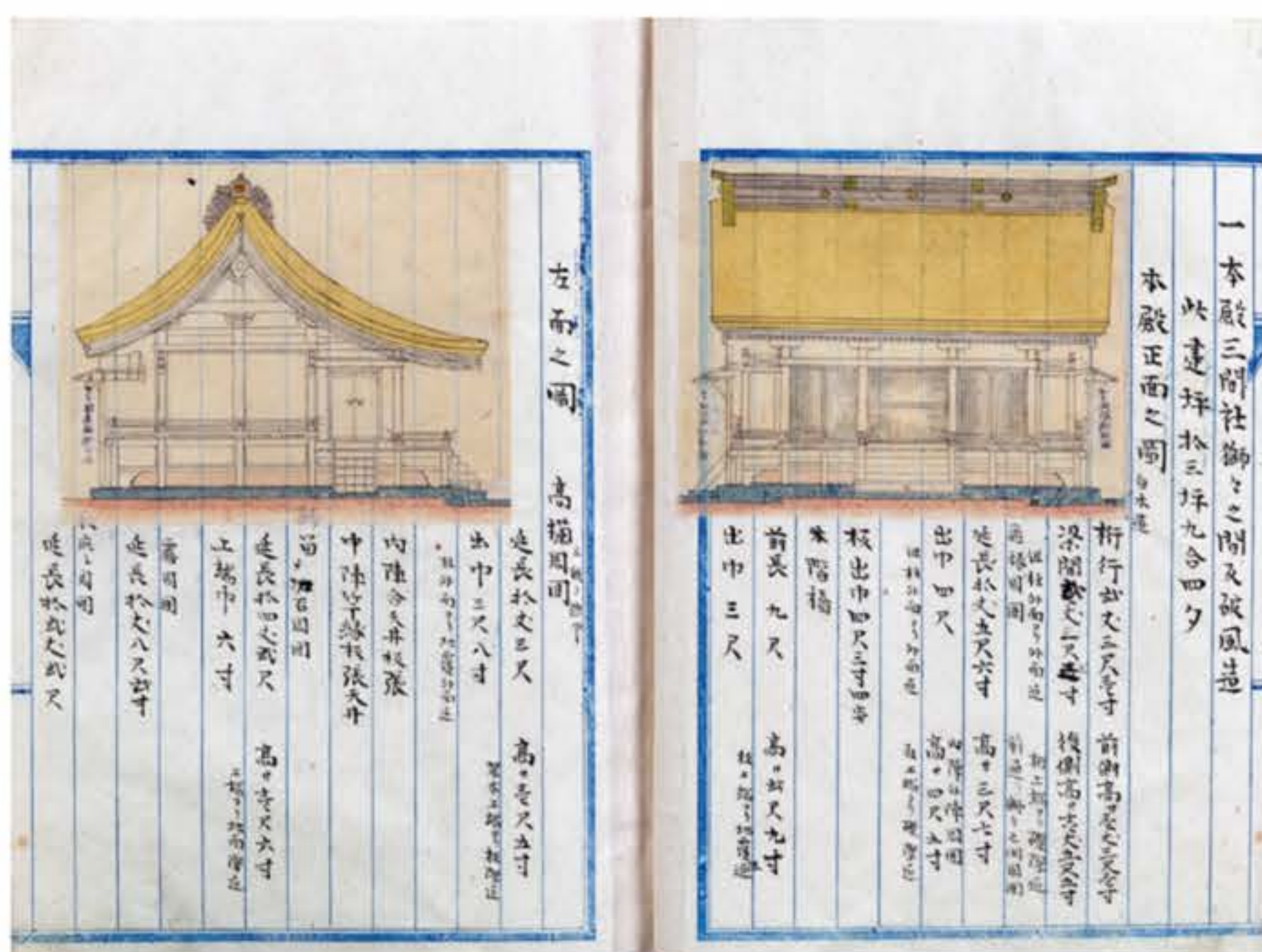


三 ふくおかのくらし 古代から近代まで

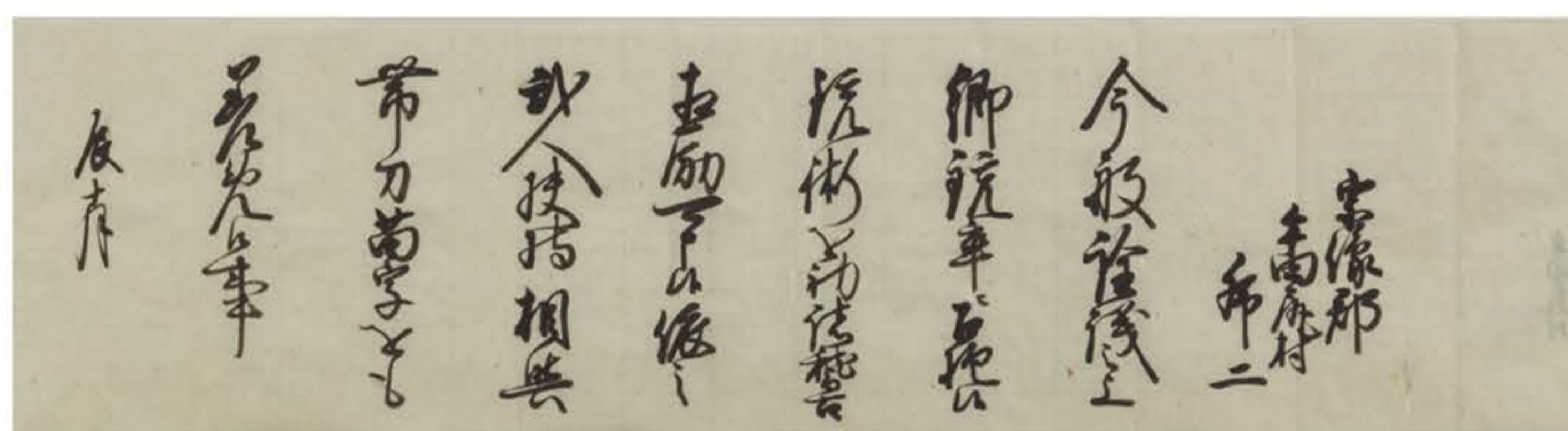
本章では、古代から近代までの、様々な身分・職種にあった人々の衣・食・住と仕事の道具、くらしに関する記録や記憶をご紹介します。

福岡は、日本でいち早く稲作が伝来したように、古くから海外との交流がおこなわれた土地です。東区の奈多砂丘で採集された土器は、弥生時代後期の対外交流を示唆する資料であるとともに、当時の人々の生活風景を物語ります。

大正・昭和期に活躍した博多人形師・原田嘉平氏の作品や昭和初期に博多織元の中西家で発明された「電気紋織」のタペストリーなどからは、時代とともに技術が進歩し、美意識が洗練されてゆく様子が窺われます。また水屋模型などの遊びの道具が、今では失われたくらしを思い起こさせる一方で、市内社寺の建築記録など、現代の私たちのくらしに繋がる資料も見られます。



(上) 糟屋郡志賀神社明細図書。享保年間以来、代々呉服町で大工を営んだ亀田家に伝わる、明治～昭和時代の県内寺社等の建築記録のうち。〔亀田和子資料〕



(左) 香椎宮社家・木下家に伝来する幕末の文書で、のちに伊勢神道系の事務局等で重きをなす木下美重を「郷銃卒」に任じる内容。〔木下家文書〕

(下) 慶応2年に購入された貨幣計量用の秤。同家は、越前朝倉家に源流をもつ紺屋町松村家の別家で、蠟燭や陶器を商った。〔松村直寿資料〕

(下右) 奈多砂丘で採集された考古資料。弥生時代後期～古墳時代前期の土器のほか朝鮮半島南部産の瓦質土器があり、博多湾沿岸の対外交流を物語る。〔梅木昭和資料〕

(下左) 九州を代表する民陶であり、その陶芸技法が国の重要無形文化財に指定されている小鹿田焼の雲助。酒や醤油などの一時保存に用いる。〔坂本幸子資料〕

(左) 博多織元・中西家で昭和初期に発明された電気紋織技術によるタペストリー。この画期的な技術は数々の賞を受賞した。〔中西裕子資料〕



(下) 早良区城西の吉倉家で使用された昭和13年製の水屋模型。母方の親戚筋である旧福岡藩士・井手家から贈られたもの。

〔吉倉慶子資料〕



(右) 寄贈者の母が子どもの服を仕立てるために購入した1930年代の独・モンドロス社製足踏みミシン。〔長節子資料〕

(下) 明治期に東区・吉塚で紙問屋を、また後に博多区・千代で文具店を営んだ中窪家で、使用された婚礼用丸帯。〔中窪菊枝資料〕



(右) 大正・昭和期を代表する博多人形師・原田嘉平氏の作品「ざくろ」。「嘉平」の印が認められる。

(下中) 同じく嘉平氏の作品「うさぎ」。「ざくろ」は嘉平氏の二女、「うさぎ」は三女に贈られた。〔原田嘉平資料〕

(下左) 「聖戦記念」と題されたアルバムで、昭和戦中期の白黒写真と葉書を綴じるもの。〔濱地秀晴資料〕



(下) 昭和28年に向の山公園（現・東区香住ヶ丘）の給水塔から全方位を写して繋げたパノラマ写真。当時小学5年生だった寄贈者が撮影したもの。〔金子健資料〕



四 コレクションと博物館 近現代

最後に、近・現代のくらしの中で形成された個人の収集物をご紹介します。

これまでの展示資料の多くが、日々のくらしの中で自ずと各家に「集まったもの」であるのに対して、本章では個人が自らの考えや趣味に従って「集めたもの」を展示します。魚や釣りに関するモチーフのネクタイや箸置きなど、ひとつのテーマに対して膨大な数の品々が含まれていますが、どれも確固たる収集の意志がなければ、いま眼前に並ぶべくもなかった資料です。

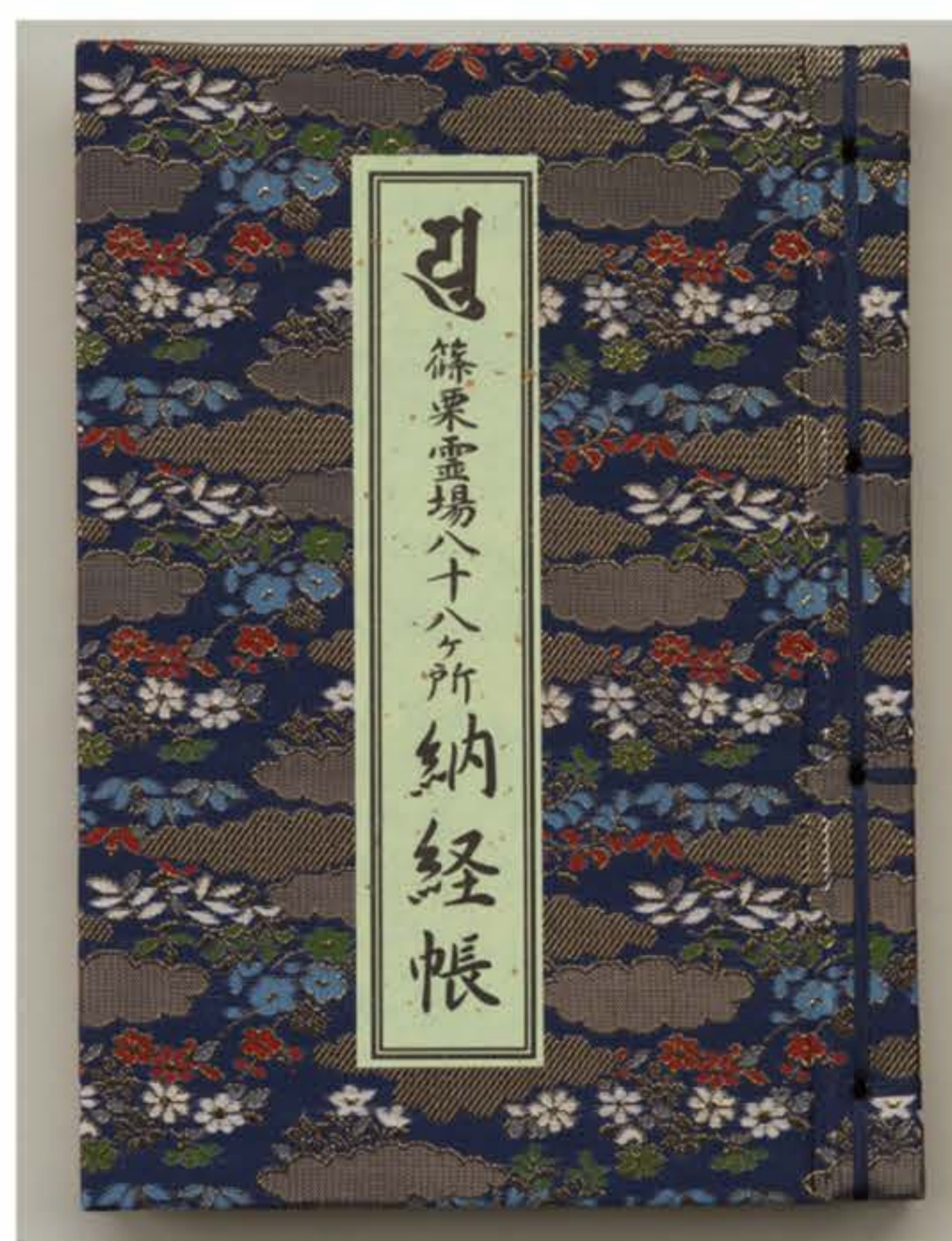
3章までの展示資料も、所有者の方々が何代にもわたり守り継いでこられたからこそ現存することを思えば、本展を支えているのは「あつめる」「守り伝える」人々の営みなのだ改めて実感されます。「収集」「保存」を活動の基本に掲げる博物館は、生きた人の営みの延長にあつて、そのバトンを託された存在だとも言えます。その努力や喜びが、本章の資料に重なって伝われば幸甚です。



(右) 昭和6年の博多築港起工式を記念した、市内名所絵葉書。270件の絵葉書コレクションより。(田中義幸資料)

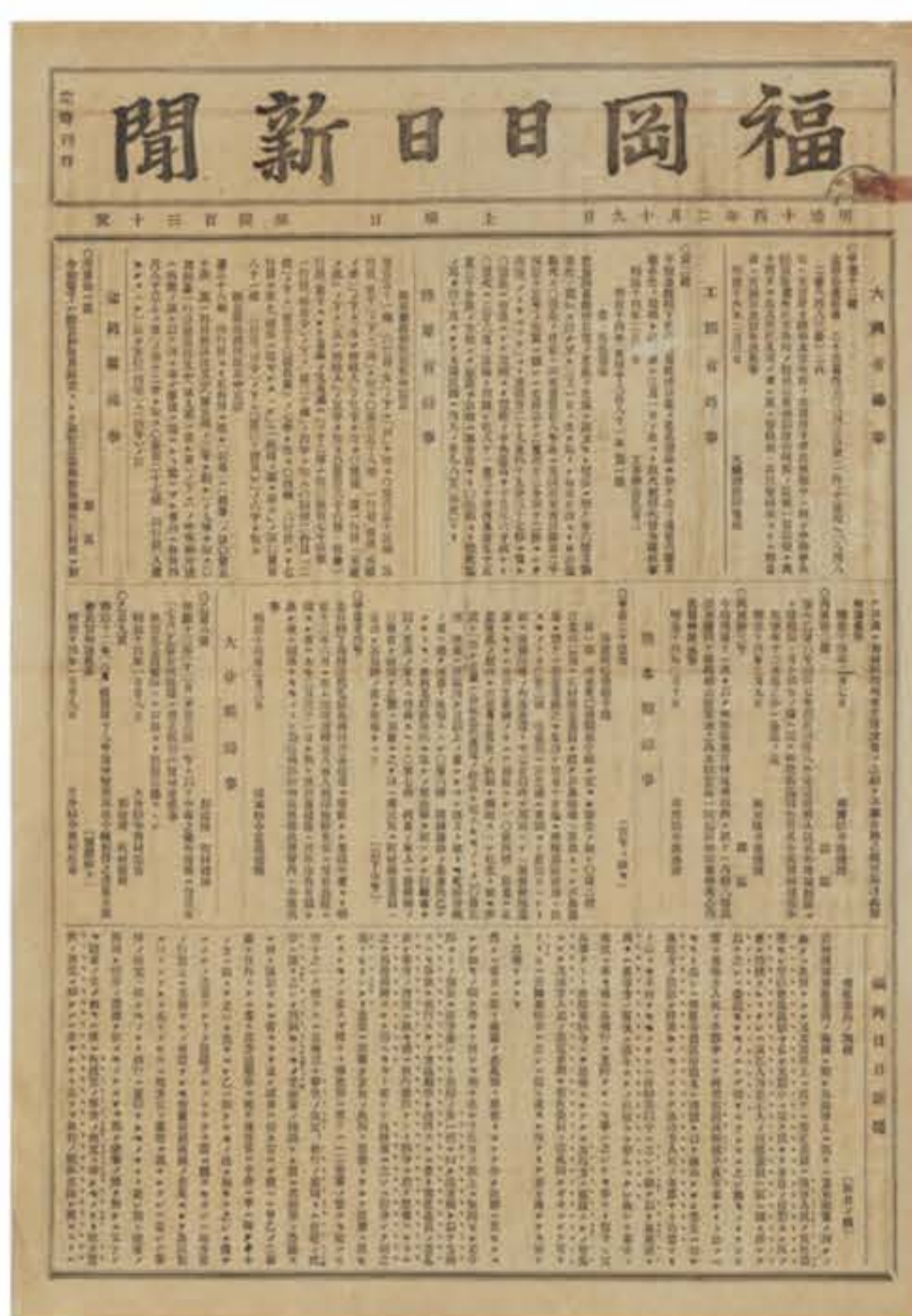


(上) 寄贈者が収集した昭和30年代の広告マッチ。店の連絡先が印刷してあり広告の役を果たした。360点のコレクションより、右上から時計回りに、「プレイメイト サントリー博多」「SNACK COFFEE PORSCHE」「都屋謹製」「福岡銀行」。(久芳和喜資料)

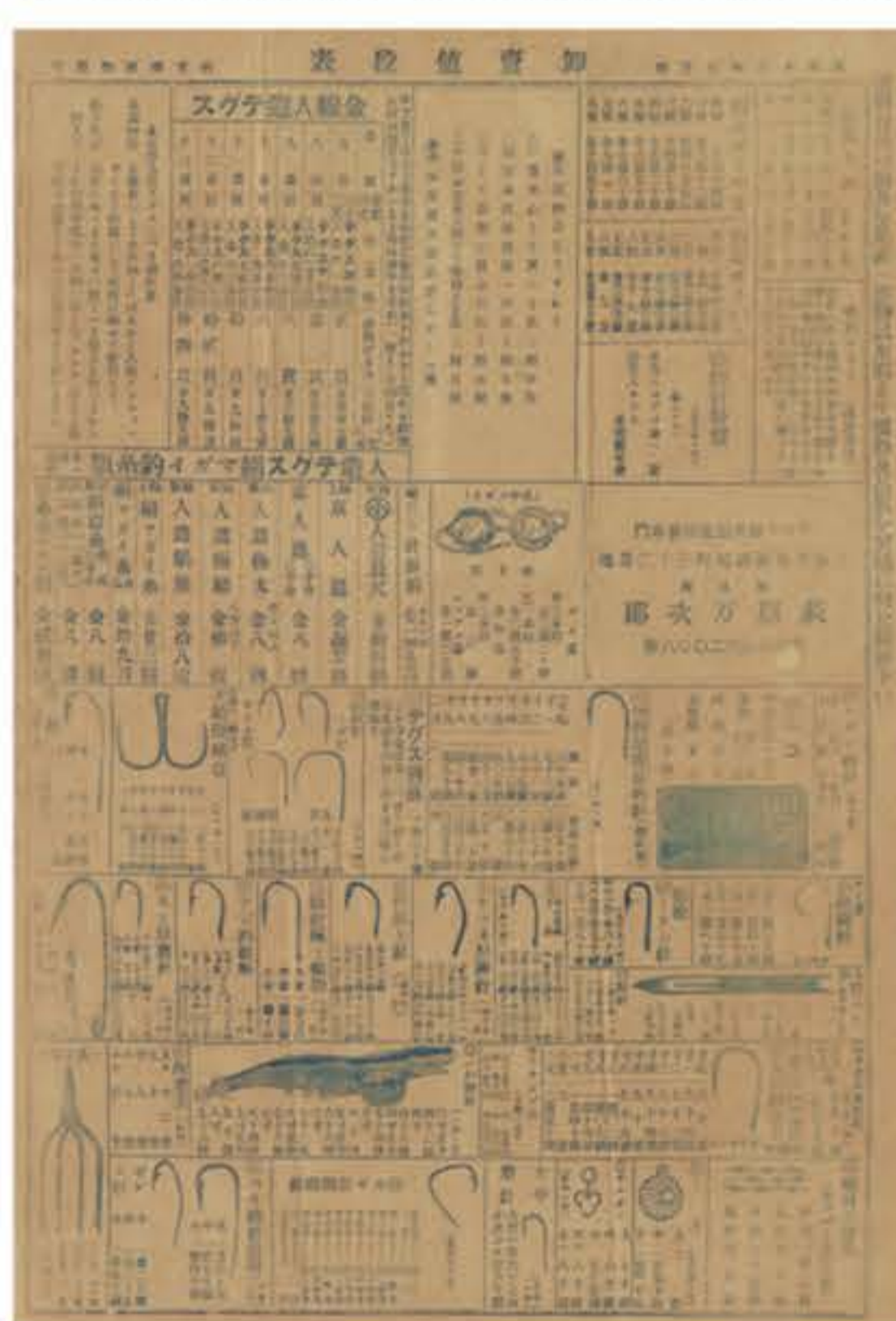
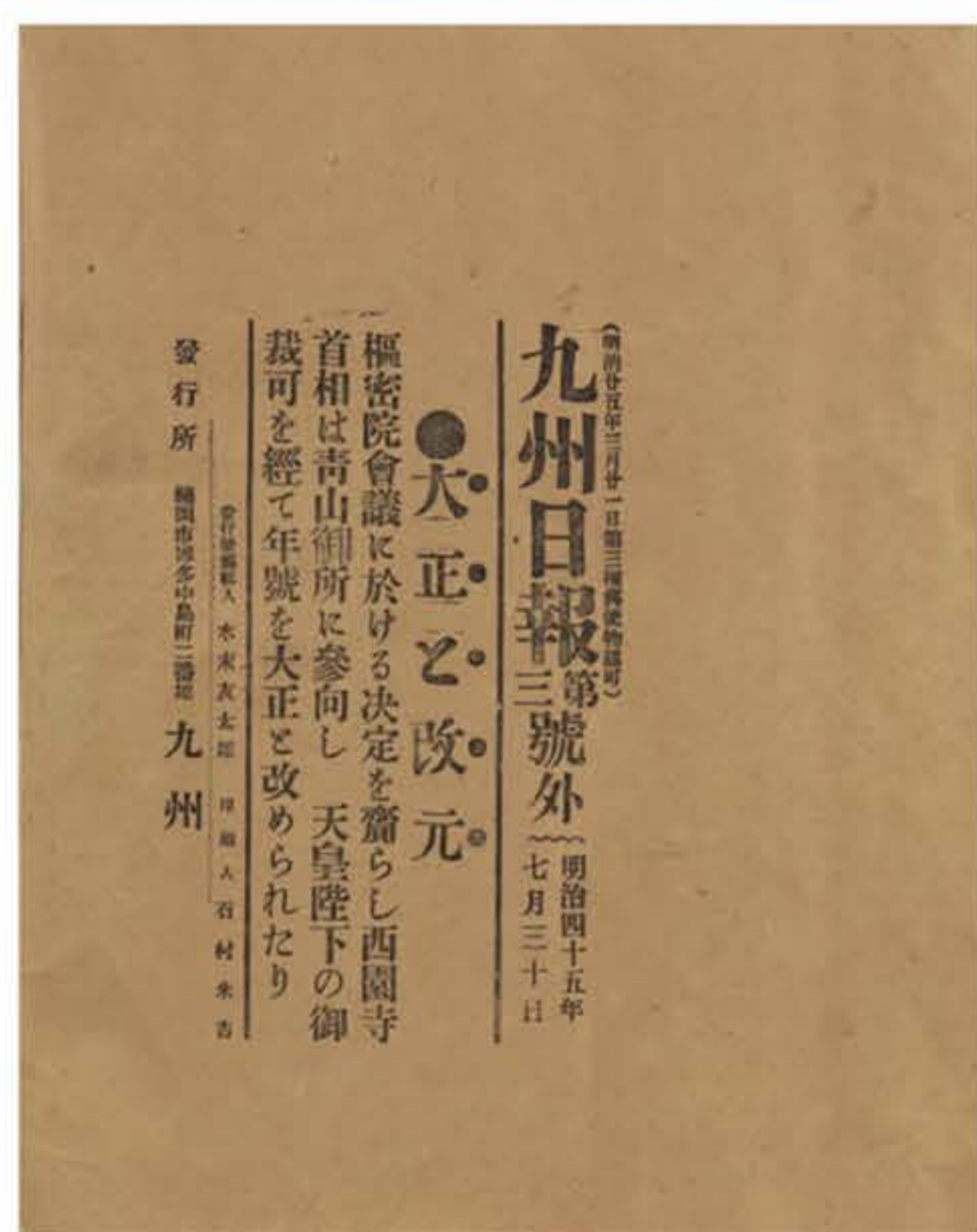


(右) 篠栗霊場八十八カ所納経帳。寄贈者が平成27年5月28年9月に巡礼し収集したもの。(二宮泰治資料)

(左) 「千代の松」で知られる酒造家で、2代にわたり県会議員等も歴任した寄贈者宅にて購読・保管されていた1万点以上の明治・昭和期の新聞より。(多田洋子資料)



(右下) 改元を報じる明治45年7月30日の九州日報第三号外。明治～昭和期の新聞号外および新聞切抜約400点のうち。(古賀晋資料)



(右) 寄贈者が収集した、膨大な量の釣り・魚関連資料のうち、魚モチーフのネクタイ150点の一部。

(下) 同じく、魚の箸置き1000点超の一部。いずれも「釣道楽の世界」展(平成26年)に出品。(金森直治資料)



(右) 北九州八幡西区で時計店を営む寄贈者の先々代が、隠居後に釣具店を営む傍ら収集したコレクションより、明治・大正期の釣具値段表。平成26年の特別展「釣道楽の世界」を機に当館へご寄贈いただいたもの。(林信博資料)

おわりに

本展の開催にあたり、貴重な資料をご提供いただきました皆様には、誠に厚く御礼申し上げます。また、ご観覧いただいた皆様には、この展覧会を通して福岡の歴史と人々のくらしについて、より一層の関心を寄せていただくとともに、福岡市博物館の資料収集活動に、引き続きご理解とご協力をいただければ幸いです。

ご協力いただいた方々

(寄贈・寄託者名/五十音順 敬称略)

- | | |
|-------|-------|
| 石橋善弘 | 稲員大三郎 |
| 梅木昭和 | 長節子 |
| 金森直治 | 金子健 |
| 亀田和子 | 衣笠守道 |
| 木下響 | 木村和男 |
| 草場七生 | 久芳和喜 |
| 古賀晋 | 坂田立子 |
| 坂本幸子 | 島井健 |
| 多田安子 | 多田洋子 |
| 田中善幸 | 寺田義郎 |
| 富田尚高 | 中窪靖子 |
| 中西真由子 | 中西裕子 |
| 西信夫 | 二宮泰治 |
| 濱地秀晴 | 林信博 |
| 藤井英子 | 帆足高明 |
| 本多文子 | 松村直寿 |
| 松本登美子 | |

福岡市博物館 〒八二一四一〇〇〇一
福岡市早良区百道浜三丁目一番一号

☎〇九二・八四五・五〇一一